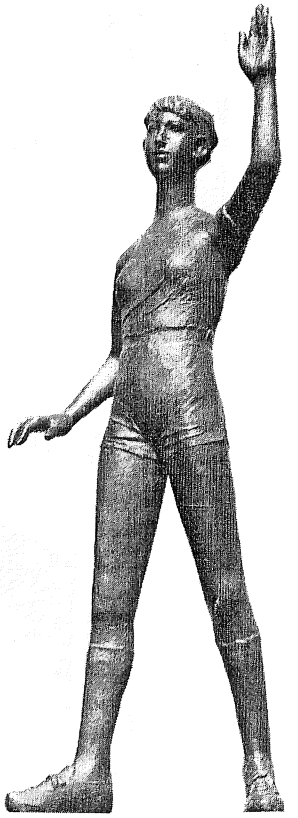


発行責任者

上田高女・染谷丘高校
東京同窓会
会長 小林 ふき子
〒178 東京都練馬区
大泉学園町2-27-11
TEL 03-921-7340

(題字は両角辰文前校長先生)

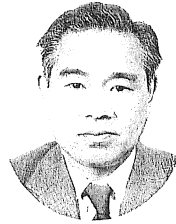
嗚呼



長野県上田染谷丘高等学校
創立八十周年記念 制作 福家あや
一九八一・一〇

両角前校長御勇退のあとを継ぎ、四月より上田染谷丘高校にお世話になることになりました。母が本科第二十三回(大正十三年三月卒業)で染谷には大変御縁が深く、そのほか叔母たち、従姉妹たち、姪、そして近くは甥までお世話になっており、在職中は力の限り御恩返しをしなくてはと考えております。

伝統は不滅



上田染谷丘高等学校校長

伊藤 稔

平素母校に対し絶大な御後援をいただいております、心から厚く御礼を申し上げます。東京支部の皆様には、故郷を遠く隔っていらっしゃるにもかかわらず、変わらぬ母校愛をお寄せいただき感謝に堪えません。

支部総会には、わざわざ御招待をいただいたにもかかわらず、前任校の創立六十周年記念祝賀式と日が重なり、失礼いたしました。事情御賢察の上、御容赦下さい。この三月まで在職し、この祝賀会の準備を三年間続けて参り、二億円以上の浄財を御寄付いただいたため、当日は、式典でも祝宴でも共に大役を仰せつかってしまいました。そこで、どうしても東京の方へは参上することができませんでした。お許しを乞う次第です。

母校も、上田小県地方の中学卒業生徒が急増したため、現在、各学年とも十学級、計三十学級で、生徒数千三百七十名というマンモス校となっております。昭和六十四年、六十五年度は更に増加も見込まれ、長野県下では第一級の大規模校となっております。全国的に高校中退者の急増が憂慮されておりますが、母校は、おかげ様で一名の中退者もなく、生徒達は落着いて学業にいそしんでおります。在校生の九十五パーセント以上が上級学校の進学希望で、国公立大学の合格者も漸増しており、何とか先輩達の足跡を汚さないようにと、学校を挙げて取り組んでおります。オリンピック大会に、槍投の真保正子、八十メートル・ハードルの依田郁子を送り出し、バスケットボールの全国選手権大会において、三年間連続で全国制覇の偉業を達成した、先輩各位の汗のあとは、脈々と続きます。

て受け継がれており、各運動クラブが、北陸信越五県大会や県大会等で多彩な活動を示しており、遠征費の不足に苦しんでいるような実情です。学業でもクラブ活動でも伝統の輝きは光を失っておらず、生徒の心に息づいており、有難い限りです。変わらぬ御声援を期待申し上げる次第です。紙幅の関係で就任の御挨拶のみに止めさせていただきます。



乗り継ぎ乗り継ぎ総会場へ

上田染谷丘高校同窓会副会長 須田美智子 高4回卒

十月三十日、東京同窓会総会の当日を迎えた。昨夜の雨が雪に変わり寒い朝になった。午前六時三十分、上田駅に到着。一番線には見慣れぬ列車が停車。待合室の乗客達も妙にあわただしい。上り列車の案内ボードは、『急行能登2時59分』『快速信州リレー号 5時55分』の二本。『あさま2号』はどうなっているのか。駅員の答は『大雪のため軽井沢付近で大量の倒木があり運行不能。』とのことである。しばらくして『あさま2号』は本日連休。』の連絡が入った。

私達は、早速『あさま4号』に切替手続きを開始。その間、駅の電話のベルは総て鳴り放したが受話器を取る駅員は一人もいない。上田駅は全くパニック状態である。又、東京への電話も何としても通じない。兎に角、状況待ち以外には手はなかった。そんな事をしてる間に、一番線の列車は姿を消し、『信州リレー号』が三時間近く遅れて入って来た。『あさ

ま4号』を待っていた私達は有無を云わさず乗せられてしまった。発車ベルが鳴らないまま列車は発車、大屋駅に来た。状況のつかめないまま、二十分近く停車。田中、滋野と同じような状態で小諸駅までたどり着いた。驚いたことに、隣のホームに先程の見慣れぬ列車、実は昨夜の『能登』がまだ立往生。しばらくして、『能登』に乗り換えるように。』との連絡に私達は大急ぎで移動。これ又、『トンネル付近に故障列車、軽井沢に『妙高』停車、倒木は目下片付け中。』のアナウンスに余儀なく観念せざるを得なかった。

気象庁始まって以来の大雪にお、わられた十月の浅間山、野菜畑が朝陽に輝く美しさと幹から折れた木々の凄まじい大自然のキャンバスに目をうばわれていた。十時半すぎトンネルを抜け、高崎から上越新幹線に乗り換え上野駅にたどり着いた。午後一時過ぎ地下鉄を下りて総会場に着いた時は総会も終り近かった。

結婚相談所について

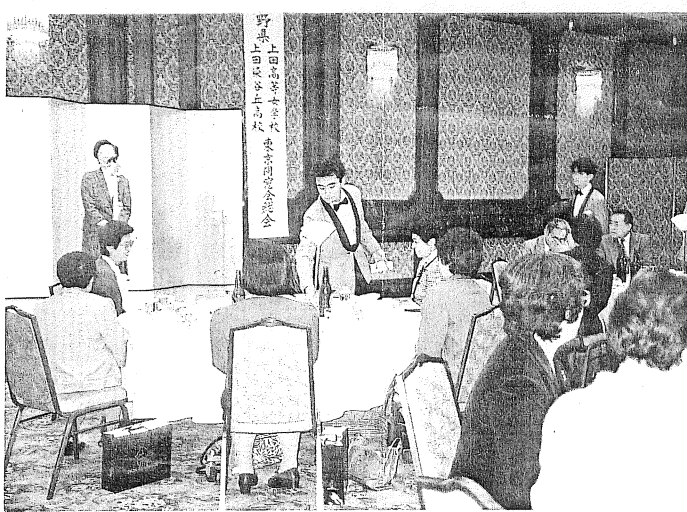
昭和四十八年十二月一日開所した同窓会結婚相談所もお陰様で十五年を迎えます。

岩下止代相談所長をはじめ九名の相談員が、毎月五日、二十五日に同窓会館へ出掛けまして、午後一時から三時まで来所する皆さんに適当と思われる方々を紹介しております。

毎回、ご両親お揃いの方、お嬢様をお連れの方など熱心に足を運んでいただいておりますので、私達相談員も時間を忘れてご相談に応じることがしばしばあります。

さて、申し込みの規定ですが、
申し込み料 二千元
見合成立料 一千元
結婚成立料 一万円

所定の用紙に必要事項を記入していただくわけですが、遠方の方は郵送でも結構です。お問い合わせは、岩下止代相談所長まで
長野県小県郡東部町田中二二〇
☎ 〇二六八二一〇九八八



収支計算書 (昭和62年4月1日~昭和63年3月31日)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前期繰越	645,980	交通費	78,490
年会費	832,000	印刷費	122,280
総会費	1,002,000	会議費	77,450
寄附金	105,000	総会費	1,261,010
補助金	4,000	渉外費	63,000
		事務用品費	8,775
		通信費	215,300
		支払手数料	19,950
		計	1,846,255
		次期繰越金	742,725
合計	2,588,980	合計	2,588,980

上記計算書は昭和63年度総会で承認されました。次期繰越金の内訳は、現金 142,725円、中期国債ファンド 600,000円です。

総会だより

杉山和子 本科47回卒

昭和六十三年十月三十日(日)、表参道駅より東京青山会館までの街路樹の葉もすっかり黄色くなり、上田高女・染谷丘高校東京同窓会の総会にふさわしい、さわやかな秋空の朝でした。

第三十九回定期総会には、母校から岩下同窓会顧問、白鳥会長、須田・土屋両副会長、事務局から武捨先生と寺西様がお越しくださいました。特に、会長、両副会長のお三人は、信越線が大雪のため不通となり、難行苦行の末、七時間も乗り継ぎして、ご出席ください、頭のさがる思いがいたしました。

他に長野県人会から杉田事務局長、そして上田高校関東同窓会から小林会長、生島副会長、馬場副幹事長、また、今年より姉妹校として千曲高校同窓会より神林東京支部長、金沢副支部長、田中事務局長の皆様をお迎えし、会員多数が出席して、盛大に執り行われました。



第一部の総会は、式次第の通り滞りなく終了し、第二部の懇親会のために大広間へ移りました。

会場は、丸テーブルにピンクのテーブルクロスがかいかにも女性の集いらしくはなやいだ雰囲気をもたせておりました。

出席会員中の最長老であられる本科二十六回卒の小山芳子様、沢木多実子様ご二人の乾杯の音頭で宴が始まりました。

この四月から母校へ赴任してこれた金子稔校長先生は、あいにく欠席されましたが、メッセージや祝電で懇親会に花をそえていただきました。会員一同こころよりお礼申しあげます。

フランス料理をおいしくいただきましたが、ひさびさに会った先輩や後輩、また同期の方と、つもる話に花がさき、あちらこちらのテーブルから、楽しげな笑い声が聞こえてきました。

今回は、特別な企画もなく、静かな会合でしたが、上田高校の小林様が、自作の歌をご披露してくださいましたこと一同感服し、また、今回初参加の



長野県人会連合会 杉田事務局長

ご到着

千曲高校の神林様から、千曲高校の沿革をお話しいただいたことは、たいへん意義深く、また、新鮮な気持ちでお聞きすることができました。

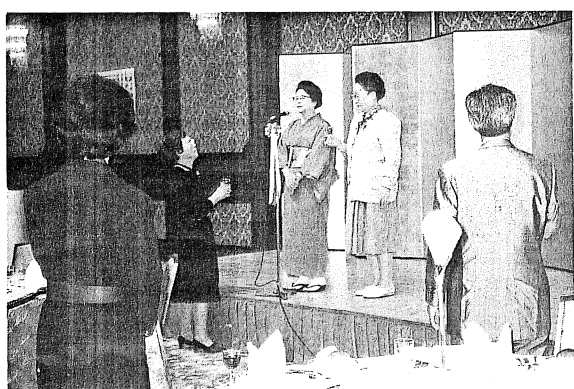
宴なかばで、本科四十三回卒の皆様から、小林ふき子会長の日頃のご苦労にたいして、花束が贈呈されました。その光景は、一段と美しい場面でした。

会長就任以来すでに四年、いつときも頭から同窓会が離れることなく、身を粉にして同窓会のためにお骨折りでござっている小林会長の姿を想像してみてください。

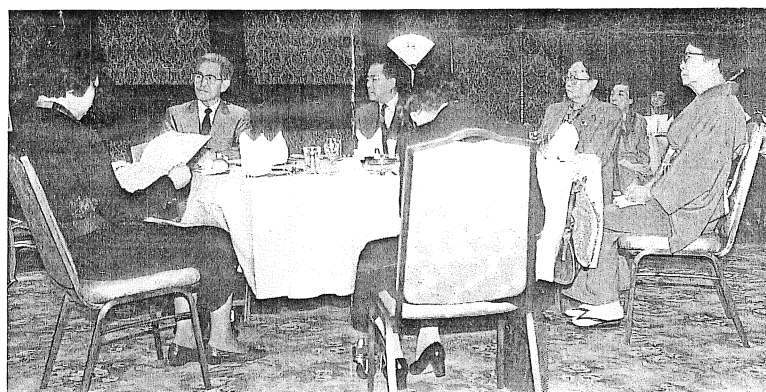
閉会の時刻がすでに過ぎ、最後に校歌、信濃の国などを歌い、来年を約して、懐かしいおもいを胸に散会いたしました。



いらつしゃいませ

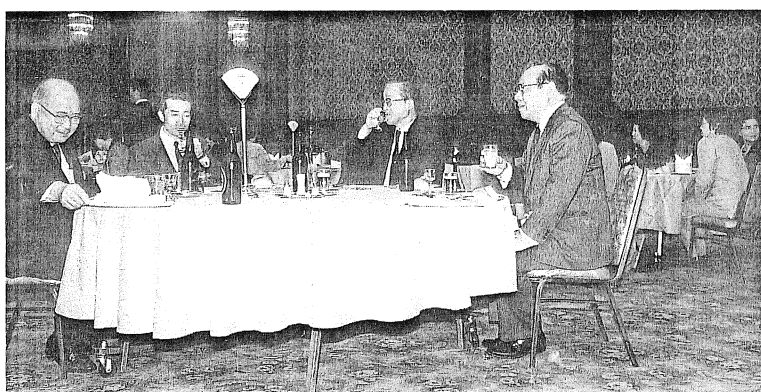


乾杯!



向って左から来賓の

田中様
神林様
金沢様



向って右から来賓の

杉田様
生島様
馬場様
小林様

ごあいさつ

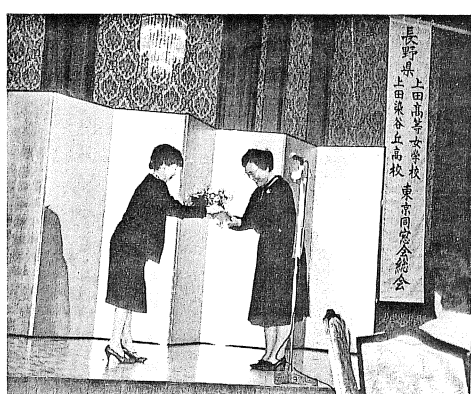
上田高女・染谷丘高校東京同窓会会長 小林ふき子 本科41回卒

木枯らし吹きさすび、年の瀬もいよいよ押し迫ってまいりました。会員の皆様ごきげんいかがお過ごしでしょうか。

去る十月三十日、多数の会員の皆様のご出席をいただき、無事六十三年度総会を終了いたしました。ご協力有り難うございました。

度々お知らせしましたように、今年度は会員名簿を作成いたしました。チェックにチェックを重ねたのですが、数箇所のミスがみつかりました。ご迷惑をおかけした皆様には、たいへん申し訳なく思っております。どうぞお許しくださいませ。いずれ機会をみて、正誤表をつくる予定です。

さて、今期の役員総会で、三たび会長に選ばれました。公私ともに問題がないわけではなく、また、三期つとめあげれば、良きにつけ悪きにつけ会長職六年という長い記録もできそうです。が、後をどうするか方向づけをして次に送ることをベターと考え、微力を承知でも一期お引き受けすることに決めました。東京同窓会のために精一杯努力いたしますので、他の役員の皆様ともども会員の皆様の絶大なご支援とご協力をお願い申し上げます。



相好をくずして 花束を受け取る小杉ふき子会長

消息

会員消息(物故者)

- 本科17回卒 芦田 愛子様
- 本科17回卒 牧野 操子様
- 本科29回卒 池田 曜子様
- 本科43回卒 横山 理子様
- 高校4回卒 高樋 洋子様
- 高校6回卒 中島つるよ様

お知らせ

東京同窓会名誉会長芦田愛子様は、昭和六十三年一月、また、高4年次役員高樋洋子様は、昭和六十三年十二月四日逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

☆あまり天候に恵まれなかった昭和六十三年。正月は季節はずれの暖かさ、四月初めの大雪、雨天と曇天をくりかえした夏。でも十月三十日の総会は、すばらしい秋晴れの日でした。

☆時のたつのを、あれほど苦痛に思っていたことはない、といっても過言ではありません。会場の中ほどから拍手が上がり、母校の会長、両副会長をそこに認めたとき、安堵の胸をなでおろしました。時すでに午後一時半をまわっておりませんでした。

☆母校の唐楓並木もすっかり冬支度をととのえたことでしょう。諸般の事情により会報発行ができませんでした。どうぞご容赦ください。

